

## 「会長1年目を振り返って」

会長 石澤 伸弘（北海道教育大学札幌校）



会長を仰せつかり、新体制がスタートしましたが、最初の年が終わろうとしております。

「研究助成」では、厳正なる審査の下、2件の研究を選考し、少額ではありますがサポートさせていただくこととなりました。

また、「第3回研究発表会」を5月中旬に開催しました。こちらは、一般研究発表は6演題、研究助成採択者による研究計画発表は2題でしたが、発表会終了後も活発な意見交換があり、参加者間での交流が深まりました。学部生、大学院生を含め、50名弱の参加がありました。

「第63回大会」は、11月30日～12月1日にかけて、

苫小牧工業高等専門学校において開催されましたが、発表演題数は27演題を数え、恒例の「若手研究者賞」の選考も行われました。80名以上の参加者もあり、大成功の内に学会の最大行事を行うことが出来ました。多賀先生には多くの点でお世話になりました。誠にありがとうございました。

少し先の話になりますが、令和8年に開催される日本体育・スポーツ・健康学会の「第76回大会」の主管校が北翔大学さんに決定しました。当学会としてもこの大会を側面からバックアップすることとなります。この点も踏まえ、会員の皆さま方におかれましては、本学会の活動に際しまして相変わらずのご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 「理事長拝命にあたって」

理事長 永谷 稔（北翔大学）



今年度より理事長を拝命することとなりました。何分力不足ではありますが、新会長石澤伸弘先生、新副会長関朋昭先生はじめ、役員の皆様とともに尽力いたしますこと申し上げます。また、より良い学会運営、そしてより良い発展のためには、会員の皆様のご協力も欠かせません。何卒よろしくお願い申し上げます。

再来年度にはなりますが、2026（令和8）年8月31日から9月2日予定で、札幌コンベンションセンターおよび北翔大学にて「日本体育・スポーツ・健康学会第76回

大会」を開催することとなっております。先立ちまして、プレ大会的に次年度本学会大会令和7年度第64回大会を北翔大学にて11月29・30日開催予定です。

北海道のさまざまなチカラを結集し、各大会の盛会はもちろんですが、全国や世界に発揮、アピールする場になれば幸いです。大谷翔平の活躍はめざましい限りですが、不可能を可能に、常識を覆すチカラがスポーツには存在します。部活動の地域移行や地域展開も加速しつつあり、学校体育だけでなく地域を通じて子どもたちから全ての人々、社会にその素晴らしさを伝えていけるそんな役割、一助になればと思います。

# 令和6年度第63回北海道体育学会大会 傍聴記

## ■ 口頭発表

東浦 拓郎（亜細亜大学）

口頭発表は若手研究セッション 11 演題、一般発表 12 演題の合計 23 演題が発表された。

大会 1 日目の冒頭に組まれた若手研究セッションでは、トップバッターの池永和奏先生（酪農学園大学大学院）、続く田池奨先生（北海道教育大学旭川校）と、まだ会場に緊張感が漂う中、質の高い研究発表が続き、大変驚いた。いずれの発表も北海道の特徴的な気候の中で行われる体育授業、部活動を含むスポーツ活動への示唆に富み、学校・スポーツ現場への実装に向けた更なる研究が期待されるものであった。なお、両先生は若手研究者賞を受賞されたが、他の発表者も所属ゼミでの議論や発表練習を重ねて登壇されたことがうかがえる若手らしい発表であった。また、質疑応答ではフロアの先生方から方法論、考察に関する有益な質問、コメントが多くあり、学会全体で若手研究者を育てる雰囲気も印象的であった。将来を担う若手研究者の皆様には、ぜひ臆することなく口頭発表にエントリーして頂きたい。

大会 2 日目の一般発表は、百戦錬磨の先生方により、自然科学から人文・社会学に至る幅広いテーマの発表と活発な質疑応答が行われた。その中でも、貴重な資料を基に 1910 年代の北海道中等学校野球の対校試合禁止措置について考察された菊池雄人先生（札幌大学大学院）、女子少年院の体育指導の現状と課題を事例から整理し、学習内容の提案をされた矢幅照幸先生（北海道大学大学院）、「地域をめぐる運動」としてのフォトログイニングの教育的可能性を考察された森博隆先生（北海道釧路町立遠矢小学校）の発表は、生理学畑しか知らない私にとって大変興味深いものであった。また、基礎研究を精力的に行っている先生方が実践的な応用研究にも取り組まれ、実験室と現場の架け橋となる知見の蓄積が期待される。

次回の第 64 回大会が待ち遠しくなるような、活発な研究発表と質疑応答が行われ、非常に刺激を受けて口頭発表が幕を閉じた。

## ■ ポスター発表&教育講演

森 博隆（釧路町立遠矢小学校）

今年度の北海道体育学会第 63 回大会では、4 つのポスター発表が行われた。福家健宗先生（北海道医療大学）は、全身浴に比べて足浴が実施しやすい点に着目し、3 分間の温冷交代足浴が心理的・生理的リラクゼーションに効果があることを報告された。木本理可先生（藤女子大学）は、健康づくりにおける運動強度の指標として、HRV 閾値（HRVT）が有用であることを報告された。今後、こうした知見が健康寿命の延伸に繋がることが期待される。小松敏彦先生（心・体・智研究所）は、ヒト上肢体のインナーマッスルの形態的特徴について、写真や映像資料を用いて報告された。塚本未来先生（東海大学）は、季節の違いに注目し、子どもの生活習慣と自律神経活動について、小規模特認校の子どもたちを事例として報告された。特に冬季には、平日の運動時間が減少し、メディア利用時間が増加する点が指摘され、寒さの厳しい北海道における喫緊の課題であると感じられた。

ポスター発表後には、渡和由先生と武田丈太郎先生による教育講演「スポーツ×環境デザイン—資源を生かす

デザイン手法で北海道の新たなスポーツ環境を探る」が行われた。

第一部では、武田先生が「環境デザインの視点から捉えた北海道の事例」というテーマで、ヒトを出発点とした環境デザインのあり方について、札幌市大通公園や F VILLAGE での取り組みを例に挙げて講演された。

続く第二部では、渡先生が「海外と日本における地域資源を体験するサイトプランニング（配置づくり）とプレイスメイキング（場づくり）」というテーマのもと、「借景」をキーワードに国内外の環境デザイン事例を紹介された。

お二方の講演を拝聴し、「余白のある環境デザイン」（未完成な場づくり）が単なる機能的な空間を越え、意味的な空間として広がりをもつことを改めて実感した。小学校教諭として、子どもたちと共に学びの場をデザインする際には、あえて余白を残すことが、子どもたちの創造性や主体性を引き出す一助になるのではないかと感じられた。

## 写真で振り返る学会大会

今年度の学会大会は苫小牧工業高等専門学校で開催されました



教育講演の様子

それぞれの発表に対して  
たいへん活発な討議になりました



ポスター発表の様子



ご講演いただいた渡和由先生（右）と  
武田丈太郎先生（中央）

総会や若手研究者賞授賞式  
も行われました

## 学会大会実行委員報告

大会実行委員長 多賀 健（苫小牧工業高等専門学校）

今年度は苫小牧高専にて学会大会を開催させていただきました。当日は道内外各地から 80 名以上の参加者の方にお集まりいただき、日頃の研究成果を 27 題発表していただきました。この場を借りて、改めてお礼申し上げます。

第 63 回学会大会が苫小牧高専開催になることが決まってから、どうしたら多くの方に集まっていたか、快適に過ごしていただけるかを念頭に準備して参りました。会場の施設・設備は決して十分でなかったと思いますが、学生スタッフと共に、おもてなしの精神とアットホームな雰囲気作りを心掛けました。参加者の皆さんは居心地良く過ごせましたでしょうか？参加者の方が少しでも心が温まり、今後の教育研究に繋がる情報を得られていたら本望です。また、教育講演では、学校・大学体育、及び学生スポーツが、どのようにしたら生涯スポーツ社会の実現に発展していけるのか、それを考える機会にしたいとの思いで、渡先生（UR 都市機構東日本都市再生本部参与）と武田先生（北海道教育大岩見沢）にお声掛けしました。両先生とは学会当日までに何回もオンラインで打ち合わせを重ね、これまでとは異なった視点でご講演下さり、今後道内外の体育スポーツが目標とするビジ

ョンを示していただきました。心より感謝しております。

最後に、これまでの大会委員長である関先生（鹿屋体育大）、瀧澤先生（身体開発研究機構）をはじめ、前大会実行委員長の木本先生（藤女子大）、現大会委員長の塚本先生（東海大札幌）、大会実行委員の小田先生（北翔大）、石澤会長（北海道教育大札幌）、永谷理事長（北翔大）を中心に、多くの先生方にご協力をいただきました。そのサポートに深謝し、次回の北翔大学開催では、これまで以上の学会大会となるよう尽力していきたいと思っております。この度は誠にありがとうございました。



大会実行委員長と苫小牧高専の学生スタッフ

## 次回の学会大会実行委員からの連絡

大会実行委員 小田 史郎（北翔大学）

北海道体育学会第 63 回は多賀先生のお人柄もあり、終始和やかな雰囲気の中で終了いたしました。発表時だけでなく、フロアでの議論も活発に行われ、改めてチーム北海道の熱いエネルギーを感じた次第です。さて次回の北海道体育学会第 64 回大会は、令和 7 年 11 月に北翔大学（江別市）での開催を予定しています。北翔大学は札幌市から江別市に入ったあたりに位置しており、様々な方面からのアクセスが良好です。また北翔大学は令和 8 年度に日本体育・スポーツ・健康学会の会場となるこ

とが決定しており、その前年度に開催する北海道体育学会第 64 回大会も多くの発表演題でにぎわう活気あふれる大会にしたいと関係教員一同盛り上がっております。

北海道内外で研究活動をされておられる皆さんが発展的につながる事ができる場、北海道体育学会に所属してよかった（会員でない人であればぜひ所属したい）と実感できるような安心感のある場にしたいと考えておりますので、ぜひとも多くの方にご参加いただけましたら幸いです。

## 「若手研究者賞を受賞して」

池永 和奏（酪農学園大学大学院）

令和6年度若手研究者賞をいただき大変光栄に思っております。選考して下さった研究委員会の先生方に厚く御礼申し上げます。また、本研究を進めるにあたり指導いただいた山口太一先生、柴田啓介先生をはじめ、共同研究者の先生方、研究室の皆様、実験に協力して下さった被験者の方々のおかげで賞をいただくことができました。支えて下さった皆様に深く感謝申し上げます。なお、本研究は令和5年度北海道体育学会「研究助成」をいただいて実施いたしました。改めまして、選考委員の先生方にも感謝申し上げます。

本研究テーマ「低温環境における運動前の糖質溶液摂取が運動誘発性低血糖に及ぼす影響」は、低温環境下(0℃および10℃)において運動開始30分前にスポーツドリンクと同程度の糖質量を含む糖質溶液を摂取し、運動を実施することで運動誘発性低血糖が生じやすいのか、さらには、低血糖の程度が大きくなるのか否かを、常温環境下(20℃)の場合と比較検討したものです。

私の出身地である北海道のような寒冷地に根差した研究を行ってみたいと検討している中で、低温環境下では呼吸交換比が上昇しやすい(糖質のエネルギー基質利用が多くなる)ことや血糖値が低下しやすいことを示した過去の知見から、糖代謝が亢進し運動誘発性低血糖が生じやすくなるのではないかと考え、本研究を着想しました。

実際には、本研究の結果より、3.5~21.2℃の環境温における運動誘発性低血糖の生じやすさやその程度には違いがないことが明らかになりました。そのため、環境温に関係なく運動開始30分前の糖質溶液摂取に伴う運動誘発性低血糖には注意を払う必要があるといえます。

本研究を終えて、今後検討すべき課題が多く見つかりました。これら課題も踏まえ、これからも北海道の体育やアスリートの一助となる研究に尽力して参ります。どうか引き続き、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

## 「若手研究者賞を受賞して」

池田 奨（北海道教育大学旭川校）

令和6年度北海道体育学会第63回大会にて、若手研究者賞を受賞することができ、大変光栄に思っております。選出していただいた委員の先生方に深く感謝申し上げます。また、本研究において、ご指導をいただいた土橋康平先生をはじめ、共に研究を行ったゼミの同期や被験者の学生の方々のおかげであつてこそこの結果だと思っています。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

本大会で発表した「冷房設備のない暑熱環境下での簡便な冷却法が温熱感覚に及ぼす影響」は、地球温暖化の影響により北海道においても気温が上がっており、学校での授業環境が悪化しているにもかかわらず、冷房設備が整っていないという現状から、授業中に行える簡便な冷却方法の開発を目的として行いました。本研究の結果、45~50分の授業の中で、飲水に加え15分ごとに1分間の冷却介入(手掌冷却および首冷却)を計2回行うことで、

飲水のみとの条件と比べ、温度感覚および熱的快適性に改善が見られました。したがって、暑熱環境下での授業中において、飲水に加え簡易的な手掌・首冷却を行うことで、効果的に温熱感覚を改善させることが示唆されました。

私自身、大学では運動・環境生理学を専門に学んでおり、本研究のような暑熱環境だけでなく、寒冷環境下におけるカフェイン摂取が高強度運動時のパフォーマンスや呼吸代謝応答に及ぼす影響など、様々な環境における代謝応答について研究をしています。本大会にて、先生方から頂いたご質問やご指摘等を参考に、さらに研究を進め、今後の教育現場やスポーツ現場でより教育現場で実用的に用いられるよう精進して参りたいと思います。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

## 研究委員会活動報告

研究委員 瀧澤 一騎（身体開発研究機構）

研究委員会の活動として、研究助成の選考と、学会大会における若手研究者賞の授与を行いました。役員の変更と同じく、今年度から研究委員会メンバーが入れ替わり、森田憲輝先生（北海道教育大学）、井上恒志郎先生（北海道医療大学）、瀧澤の3名となります。よろしくお願ひ致します。

研究助成の選考は、前任の研究委員による選考となっており、実質的には次回の申請から選考に関わることとなります。科研費をはじめとした研究費申請の登竜門として、皆様奮ってご応募ください。北海道体育学会で行っている研究助成は、科研費の申請書類や審査方法を参考に作られています。この研究助成の申請書を作成することで、今後の科研費申請、さらには採択に繋がるものと考えています。採択件数も限られており、優れた提案だから必ず通る、とならないのは残念ですが、「書いて出す」ことがさらに大きな研究費獲得に繋がるはずで

若手研究者賞については、学会大会における11件の対象研究発表から、池永和奏さん（酪農学園大学大学院）と池田奨さん（北海道教育大学旭川校）が受賞されました。おめでとうございます。今回は評価が僅差となり、最後まで議論が重ねられておりました。近年、受賞する研究分野に少し偏りが感じられることもありますが、審査自体はしっかり公正に行われております。先生方におきましては、積極的に若手研究者賞を狙った発表をご指導頂きたく存じます。また、「若手研究者」賞であり、「研究発表」賞ではありません。対象となる発表だけを評価した訳ではなく、今後も研究者として活動・活躍してくれることを期待して授与されております。受賞したお二人は、引き続き研究活動を続けると共に、北海道体育学会の活動へ積極的に関わってくださることを願っております。

## 編集委員会活動報告

編集委員長 中島 寿宏（北海道教育大学札幌校）

12月に、『北海道体育学研究』第59巻を皆さまのお手元にお届けすることができました。本年度は、第63回学会大会が苫小牧工業高等専門学校で開催され、ご参加された方々には直接お渡しする形をとりました。今回の第59巻には、4編の原著研究ノートが掲載されています。いずれの論文も非常に興味深く、専門分野の研究を深めるために大いに参考になる内容となっています。ぜひ一度お手にとってご一読いただければ幸いです。

今回の編集作業は、他の編集委員の先生方をはじめ、論文をご投稿いただいた著者の方々、そして査読を担当していただいた先生方の多大なご協力を得て、円滑に進めることができました。また、編集の過程では、北海道リハビリの山本様にも大変お世話になりました。お力添えいただいたすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

昨年度まで委員長を務められていた山口先生からこの

役割を引き継ぎ、今回が私にとって初めての編集作業となりました。慣れない中で不手際もあり、投稿いただいた著者の皆さまや編集委員の方々、そして山本様にはご迷惑をおかけする場面もあったかと思ひます。この場を借りて深くお詫び申し上げますとともに、温かくご支援いただいたことに改めて感謝いたします。

次巻は、『北海道体育学研究』として記念すべき第60巻にあたります。現在、2025年3月末を締め切りとして投稿を募集しております。すでにいくつかの論文については投稿・査読が進行中ですが、さらに多くの先生方からの投稿を心よりお待ちしております。加えて、これまでご尽力いただいている査読者の先生方には、引き続き編集作業へのご協力をお願い申し上げます。今後とも、より良い学術誌を目指して取り組んでまいりますので、皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 大会委員会活動報告

大会委員長 塚本 未来（東海大学）

2024年度より大会委員長を仰せつかっております塚本未来（東海大学）と申します。大会委員会は、多賀健先生（苫小牧工業高等専門学校）と小田史郎先生（北翔大学）とともに活動しております。

第3回研究発表会（2024）は、2024年5月18日（土）に北海道教育大学札幌駅前サテライトで実施いたしました。一般研究発表は6題、研究助成採択者による研究計画発表は2件、参加者数は42名でした。発表会での積極的な質疑に加え、発表会終了後も活発な意見交換があり、参加者間での交流が深まりました。とくに学部生、大学院生を含め、多くの方々にご参加いただくことができました。

第63回北海道体育学会は、苫小牧工業高等専門学校にて開催されました。2019年ぶりの地方開催ではございましたが、北海道内外より多数のご参加を頂くことができ、参加者数は81名と大盛況に終わることができました。誠にありがとうございました。発表演題数は27演題となり、若手研究者による発表は13演題、一般会員による発表は14演題（口頭発表10演題、ポスター発表4演題）であり、非常に有意義なものになりました。開催校

の多賀健先生には、約1年前より企画検討を行っていただき、当日の運営までご尽力をいただきました。重ねて、苫小牧工業高等専門学校の学生の運営協力等により、無事に大会を終えることができましたことに厚く御礼申し上げます。

次年度、第4回研究発表会（2025）は、札幌駅近郊にて2025年5月中旬に開催予定、第64回学会大会は北翔大学（江別市）において2025年11月下旬に開催予定です。お近くの研究お仲間をお誘いの上、ぜひとも多くの皆様のご参加をお待ちしております。



大会委員会（右から、塚本先生、多賀先生、小田先生）

## 広報委員会活動報告

広報委員長 木本 理可（藤女子大学）

今年度より、広報委員長を務めさせていただくことになりました。酪農学園大学の山口先生というたいへん頼もしい委員に支えられ、今年度の活動を進めております。

さて、広報委員会では、この「ニュースレターの発行」と「学会ホームページの運営」を主な活動として行っています。ニュースレターは本号で「No.16」となりましたが、これまでも学会大会の内容や雰囲気を、参加されなかった先生方にもお届けすることを中心に編集されてきました。私がお始めて役員業務に携わったのも広報委員で、当時は印刷版のみの発行でしたが、2015年度より電子化され、本号で10年目となります。電子化されたことにより、HPからいつでも閲覧できる環境となり、より早く会員の皆さまのお手元にお届けでき、印刷や発送にかかる経費の削減にもつながっております。ただ、一方で

印刷版が郵送されていた時は、興味が無い方でも一度はパラパラとめくっていただいていたのではないかと思います。電子版となった現在はどのくらいの方にお読みいただいているのか、少し不安になったりしています。

本号の執筆依頼に関しても、皆さまに快くお引き受けいただき、どの原稿も大会当日の熱気や本学会の温かい雰囲気の伝わるたいへん興味深い内容になっておりますので、ぜひ多くの方にお読みいただき、今後の大会参加や論文投稿などの契機につながることを願っております。

ホームページの運営についても、事務局にご協力いただきながら、学会大会や機関誌の情報、役員会議事録などを掲載し、情報発信を行っております。今後もよりよい運営を目指していきたいと思っておりますので、ぜひ会員の皆さまからもご意見をお寄せいただければ幸いです。

## 事務局より

大宮 真一（北翔大学）

平素より学会活動にご協力を頂き誠にありがとうございます。本年度会長、理事長をはじめ役員が改選されました。令和6年度から令和8年度まで、事務局は畝中智志先生（北翔大学）、梅村拓未先生（北翔大学）とともに務めさせていただきます。ご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、何卒よろしくお願いたします。2025年度の本学会の事業としては、5月中旬に臨時総会および第4回研究発表会、11月下旬には第64回学会大会が北翔大学にて開催が予定されております。また、2026

年度には日本体育・スポーツ・健康学会の北海道（主管校：北翔大学）開催が決定しました。迫る機会に合わせて、北海道内の体育・スポーツ研究者の交流が活発化し、人々の生活をより豊かにする研究が発展することを祈念しております。ぜひ多くの会員の皆様に研究会、学会大会のご参加、ご発表をお待ちしております。本学会に関する詳しい情報は学会HP (<http://www.hspehss.jp/>) やメーリングリストを通じて、随時ご確認頂けますようよろしくお願いたします。

連載：HOP☆ESSAY

### 「F ビレッジから届ける」

石橋 勇司（F ビレッジ整形外科スポーツクリニック）

2024年は、日本ハムファイターズの躍進もあって、エスコンフィールド北海道が全国から注目された年でした。その新しい野球場の膝元、F ビレッジにあるF ビレッジ整形外科スポーツクリニックに理学療法士として勤務し、早いもので臨床17年目を迎えております。

日頃から患者さんやスポーツ選手との怪我と向き合っておりますが、その日々の中で障害予防の観点から、若年時より「良い姿勢」を保つことができる能力が重要と考え、児童の姿勢について研究しております。昨年から小学校より依頼をいただき、姿勢改善の体操を作成するなどし、現在も継続した「良い姿勢」を保つことへの取り組みをさせていただくことができています。少しずつ研究を実践に結び付けることができていると感じながらも、自身の力量不足を痛感することも多いですが、同時に臨床や研究に対する楽しさや喜びも増していると感じております。

さて、当院のある北広島市は、市内はもちろんのこと、エスコンフィールド北海道の存在もあり札幌など他地域からいらっしゃる方も含めた方々への医療ニーズが高まっていると日々感じております。これからも、健康増進やスポーツに関する医療的アプローチに加え、社会や地

域貢献活動などについても広く取り組んでいきたいと考えております。さらには、北広島市内の児童に対する「良い姿勢」へのアプローチなども併せ、多くの情報をF ビレッジから積極的に発信していきたいと考えております。そして、皆さまにF ビレッジ整形外科スポーツクリニックの存在が届くよう、日々精進して参りたいと考えております。

最後になりますが、臨床家としても、研究者としても、まだまだ未熟者でございますので、今後とも先生方のご指導ご鞭撻を賜れますと幸いです。







## 編集後記

今年度より広報委員を仰せつかりました。2009年度より役員を務めておりますが、広報委員は初めてです。これまでの広報委員会の業務は、研究会や学会大会での写真撮影、ホームページの更新、広告フライヤーの作成、ニュースレターの原稿依頼などでした。ただ、写真撮影以外、すべて木本先生が行って下さいました（といっても写真は、木本先生にも撮影いただいているので、ほぼ私は何もしていません）。現在、ニュースレターの校正も木本先生が進めてくださっていますので、編集後記くらいは私が。

2024年度の主な事業は、第3回研究発表会、苫小牧工業高等専門学校で開催された第63回学会大会、学会誌第59巻の発刊などでした。学会大会の盛会な様子は本誌をご覧くださいとご理解くださるでしょうか。次年度も同様に研究発表会、北翔大学で開催される学会大会、学会誌の発刊があります。学会誌への投稿促進は、編集委員会にお任せするとして、研究発表会、学会大会は、広報委員会で広報を行い、盛り上げたいと思っております。また、学会員増も責務ですね。最後に、本誌の原稿を作成いただいた皆さまに感謝申し上げます。また、次回の学会大会で次号の原稿依頼のお声がけをいたしますので、ご快諾くださいますようお願いいたします。

広報委員 山口 太一



# 北海道体育学会

Hokkaido Society of Physical Education, Health and Sport Sciences

**北海道体育学会は、居住地・所属・年齢を問わず、希望される方はどなたでも入会できます**

**【会員特典】**

- 機関誌「北海道体育学研究」への筆頭著者としての論文投稿ができます  
冊子体（年1回発刊）が配布されます
- 学会大会（12月上旬頃）および研究発表会（5月中旬頃）で研究成果の発表ができ、大会参加費が会員価格となります
- 基準を満たすことで、学会表彰（学会賞・若手研究者賞）の対象となります
- 北海道体育学会研究助成（年1回）への申請ができます
- メーリングリストにて各種イベント等の案内が受けられます

北海道に所縁のある方はもちろん、研究成果の発表機会を求めている方、冬季スポーツや寒冷環境での身体活動を研究領域に含めたい方、北海道の研究者との共同研究を希望される方など、皆様のご入会をお待ちしています！

北海道体育学会 HP  
<http://www.hspehss.jp/>  
 北海道体育学会

是非こちらをご覧ください。北海道体育学会公式ホームページ <http://hspehss.jp/>

ご多忙の中、原稿をお寄せいただいた先生方、誠に有り難うございました。深く感謝申し上げます。

北海道体育学会ニュースレターNo. 16 令和7年2月17日発行

広報委員長 木本 理可